



# News Letter

国際農業機械化研究会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 新農林社内 電話 03-3291-5718・3674

INTERNATIONAL FARM MECHANIZATION RESEARCH SERVICE

c/o SHINNORIN-SHA, 1-12-3 KANDA NISHIKI-CHO, CHIYODA-KU, TOKYO, ZIP101-0054 JAPAN., TEL. 03-3291-5718・3674

News Letter 通巻 474号

2014. 6. 15

発行責任者  
岸田 義典

## 目次

# 2014

# Vol. 5

- 日韓中の農業機械分野における特許事情  
金・張法律事務所  
弁理士 丁 碩炫 氏.....2
- 開発途上国の農業機械化に今後期待されている  
日本の役割  
Alamgir Akhtar Khan / Ramesh P. Rudra ..... 10
- 国別輸出入 (2014年4月)..... 12
- WORLD NEWS ..... 17
- EVENTS CALENDER ..... 18

# 日韓中の農業機械分野における特許事情

金・張法律事務所  
弁理士 丁 碩炫 氏

国際農業機械化研究会は、(株)新農林社と共催で、第 474 回海外農業機械事情報告会を平成 26 年 5 月 28 日（水）に開催した。講師は、金・張法律事務所の丁碩炫氏。丁氏は、韓国で弁理士として活躍。日本の大手メーカーの特許出願等にも携わっている。その特許事情を通して見えてきた日韓中の農業機械業界について、「日韓中の農業機械分野における特許事業」と題して、資料をもとに報告した。

要旨は以下の通りである。

韓国の弁理士をしている丁（ジョン）と申します。韓国に進出している日本の大手メーカーの特許出願等を行っています。大学では農業機械を専攻しました。大学院は日本の島根大学で、農業用ロボットを研究しました。現在働いている事務所では、弁理士として、機械、特に農業機械の特許に関する仕事を主にしています。

今日は、韓国の農業機械市場の動向、韓国の主要会社、韓国・日本・中国の特許出願の傾向、韓国の主要会社の特許出願、そして結論および示唆点という流れで話をしていきたいと思えます。

## 韓国の農業機械市場の動向

韓国の農業機械市場規模は、2007 年の内需 1,150 億円から 2012 年の 850 億円と約 70% にダウンしています。これはコメ消費の減少による農業生産量の減少、また、農村地域の高齢化による休耕農地の増加が原因です。しかし、FAO（国際農業機構）によると、世界の農業機械市場は 2008 年から年平均 17% くらいずつ伸びており、今後この傾向が続くと見込まれています。

日本や韓国は輸出に目を向ける必要があります。韓

国の農業機械企業全体の輸出入規模の変化をみると、2008 年までは輸入の方が多かったのですが、2009 年に輸出と輸入の逆転が起きました。それ以降、その比率がだんだん広がってきています（図 1）。

次に 2012 年の農業機械機種別輸出入規模をみてみます（図 2）。輸出する機械の 57% がトラクタです。トラクタが偏重されていることがわかります。それ以外は、作業機が 11%、田植機・移植機が 2%、コンバインが 1% です。これらは大同工業や L S エムトロン等のメーカーが主にトラクタを輸出していることが要因です。次に輸入実績をみてみると、トラクタが 17% と一番多くはあるのですが、作業機 13%、コンバイン 8%、田植機・移植機 8% と、均等に輸入していることがわかります。

2011 年の主要農業機械分野の占有率をみてみま（図 3）。韓国の主な農機メーカーの大同工業、国際総合機械、東洋物産、L S エムトロン、この 4

図1 韓国の農業機械企業全体の輸出入規模の変化（単位：億円）

